

ガレージジャッキ(共通) 取扱説明書

【品番】 GJ-2/GJ-15

GJ-A-15 / GJ-A-30 / GJ-3

この度は、KIKAIYA「ガレージジャッキ」をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

- * 本書を最後まで必ずお読みいただき、商品を正しく安全にご使用ください。
- * 本書が必要になったとき、すぐ利用できるように大切に保管してください。



KIKAIYA
TOOLS PRO SHOP KIKAIYA



コバヤシデンソー株式会社

〒720-0843 広島県福山市赤坂町赤坂 1415-3
(MAIL) info@kikaiya.com

■調査及び修理をご依頼の前に

* 故障とお考えの前に、弊社までご相談ください。

改造により故障及び損傷した場合は修理対応できませんのでご注意ください。

* 調査を依頼される際の送料は、お客様のご負担となりますのであらかじめご了承ください。

■開封時

開封したらすぐに中身を確認してください。

付属品の欠品、破損、初期不良等がございましたらすぐに販売店にご連絡ください。

※商品は到着しましたら7日以内に必ず開封して中身をご確認ください

■仕様

商品名	品番	最大能力	最低高さ	最高高さ	自重 (ハンドル含む)
■ 低床ガレージジャッキ 3.5トン	GJ-1	3.5トン	90mm	550mm	44kg
■ ガレージジャッキ 2トン	GJ-2	2トン	135mm	550mm	33.5kg
■ 超低床ガレージジャッキ 1.5トン	GJ-15	1.5トン	70mm	610mm	46kg
■ アルミ製ローダウンジャッキ 1.5トン	GJ-A-15	1.5トン	85mm	365mm	12.6kg
■ アルミ製ローダウンジャッキ 3.0トン	GJ-A-30	3.0トン	90mm	477mm	26.15kg
■ 低床車対応・油圧デュアルポンプ式 ガレージジャッキ 2.5トン	GJ-3	2.5トン	100mm	460mm	26kg

※製品改良の為、予告なく仕様を変更する場合があります

■警告

- 本製品は、ジャッキアップ・ジャッキダウン専用です。荷重を長時間保持したり、車輛を持ち上げたまま移動させたりしないでください。
- 能力以上の荷重を絶対にかけないでください。ジャッキの破損や重大な事故を起こす可能性があります。
- 必ず自動車メーカーが指定したジャッキポイントで上昇させてください。
- 自動車をジャッキアップさせた後、作業を始める前には必ず適切な位置へジャッキスタンドなどで荷重を受けてください。作業中も常にスタンドを使用してください。ジャッキアップした状態では車の下に入らないでください。
- 荷重は受け台の中心で受けてください。受け台のサイドで荷重を受けるとジャッキポイントが外れたり、ジャッキが破損したりする恐れがあります。
- ジャッキアップは、ジャッキスタンドが入る高さで止めてください。
- ジャッキは水平なコンクリートなど強固な床の上でお使いください。
- 下記注意事項を必ず読み、正しく安全にお使いください。

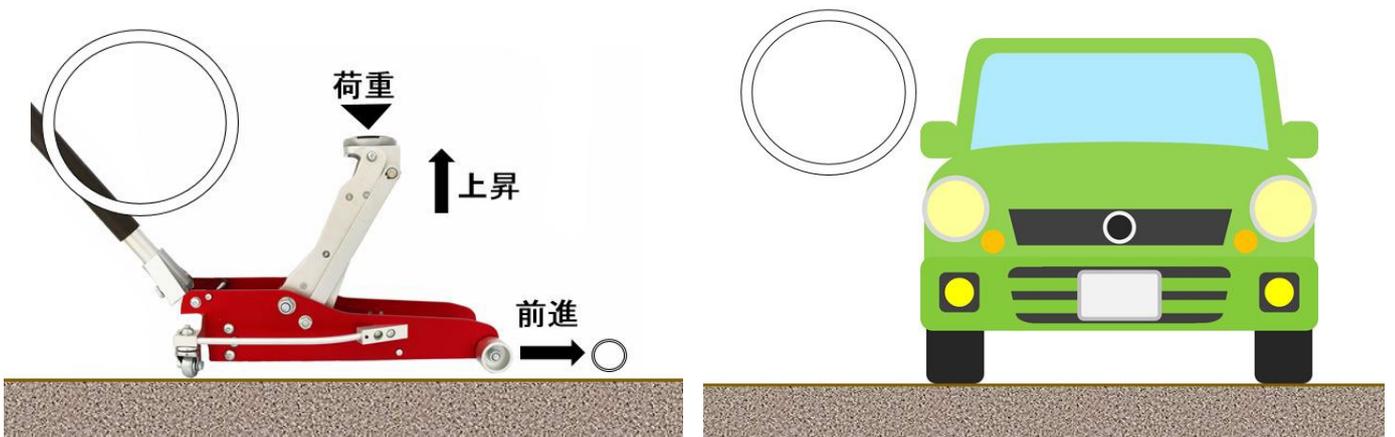
■ 注意事項

【使用場所】

（使用可能）

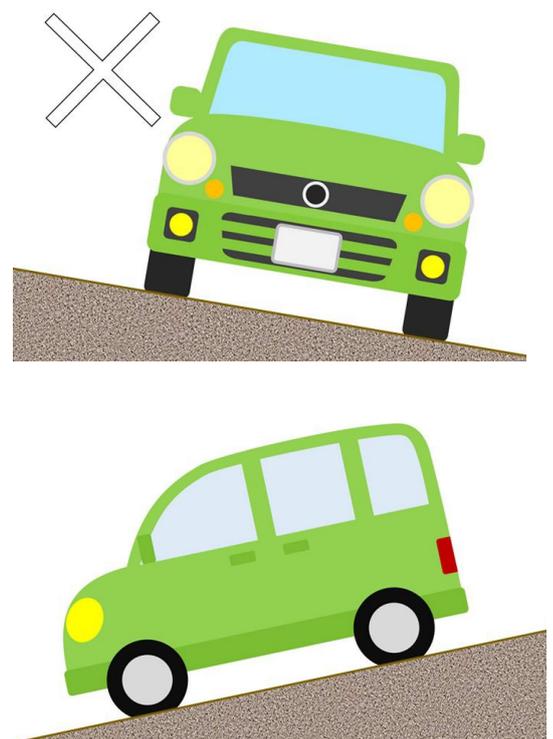
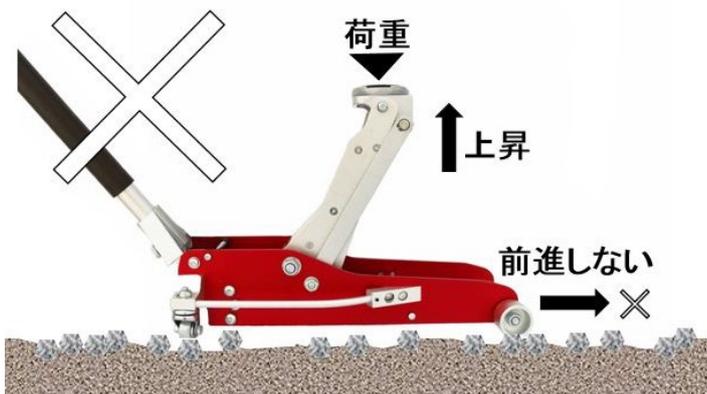
- 強固な地面
- 固い鉄板などを敷いた地面
- 平らな地面

- 柔らかく脆弱な地面・凹凸があり平坦でない場所、ジャッキのキャスターが容易に回らない場所、傾斜地では使用しないでください。ジャッキの傾きや受け台が外れて車輛が落下し、死亡や負傷を伴う事故になる危険があります。
- 傾斜地での使用はジャッキアップ中に車輛が動き出して重大な事故に繋がります。



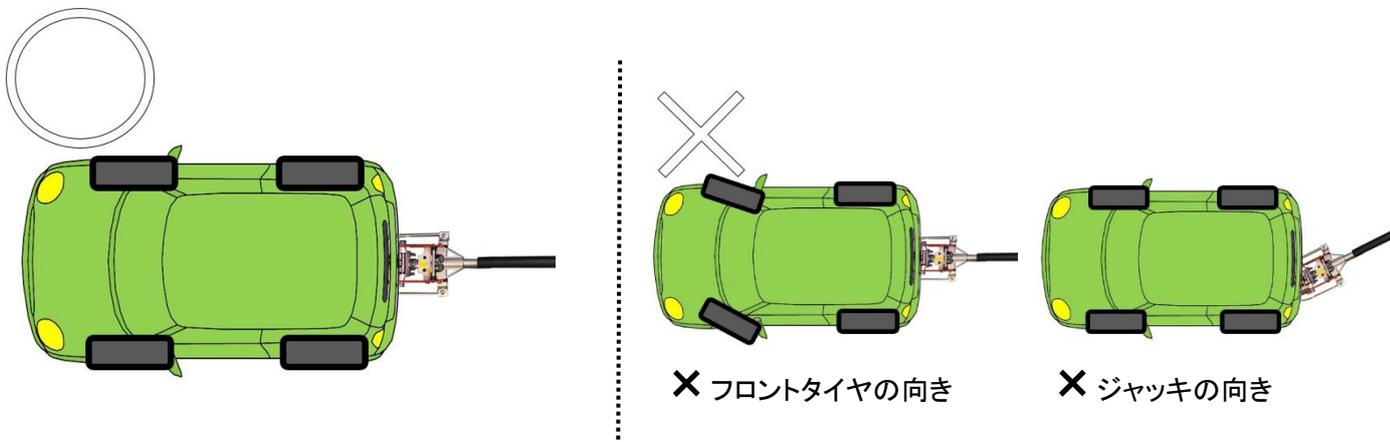
（使用不可）

- 脆弱な地面
- 砂利や凸凹のある地面
- 斜面のある地面



【タイヤとジャッキの向き】

フロントタイヤを車の直進方向に向け、ジャッキを車に対してまっすぐに入れてください。



【ジャッキポイント】

車種により「ジャッキポイント」は異なります。

指定以外での位置でジャッキアップをすると、その部分が破損する恐れがあります。
必ず自動車メーカーが指定したジャッキポイントで上昇させてください。



ジャッキアップする反対側のタイヤに輪止めをしてください。

 (例)ジャッキポイント

負荷点と異なる方向に進むので、受け台がジャッキポイントより外れます。(使用不可)

■使用手順

車種により「ジャッキポイント」は異なります。
必ず指定されたジャッキポイントでジャッキアップをしてください。

【ジャッキアップ】

【1】



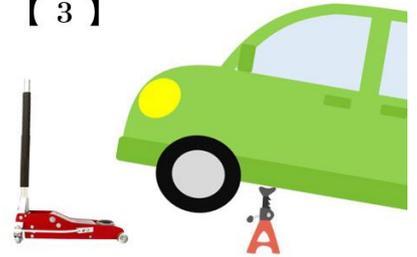
ジャッキポイントにジャッキを合わせます。
必ずジャッキポイントの確認と輪止めをしてください。

【2】



ジャッキアップ後、ジャッキスタンドをジャッキポイントの高さに合わせて置きます。

【3】



ジャッキを下げて移動させます。
車体がジャッキスタンドで完全に固定されていることを確認し

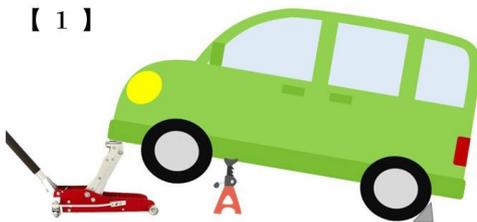
(ジャッキアップ方法)

1. ハンドルを時計回りに回します。
2. ハンドルを上下にポンピングします。



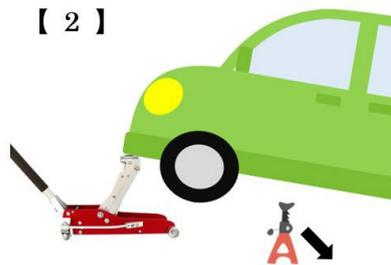
【ジャッキダウン】

【1】



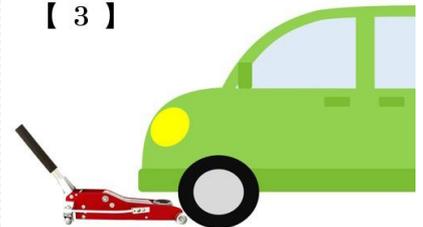
ジャッキポイントに当たるまで、再度ジャッキアップします。

【2】



ジャッキスタンドを取り除きます。

【3】



ジャッキをゆっくりと下げます。

(ジャッキダウン方法)

1. ハンドルを反時計回りに回すとジャッキが下がります。
※慎重にゆっくりと回してください。

※ 緩め過ぎるとジャッキオイルが漏れる場合があります。



! 勢いよく回すと急降下し危険です

■トラブルシューティング

状況	原因	処置方法
■ ジャッキが上昇しない	● オイルが不足している	✓ 作動油を補充する
	● エアーが噛んでいる	✓ エアー抜きを行う
	● 許容荷重を超えている	✓ 適当なジャッキを使用する
	● バルブ・チェック弁の不良	✓ バルブの清掃または交換
	● シリンダーの不良	✓ パッキンの交換及び作動油の交換
■ 上昇スピードが遅い	● ポンプの不良	✓ ポンプの交換
	● シリンダーパッキンの不良	✓ シリンダーパッキンの交換
■ ジャッキが自然降下する	● シリンダーパッキンの不良	✓ シリンダーパッキンの交換
	● バルブ・チェック弁の不良	✓ バルブの清掃または交換
	● エアーが噛んでいる	✓ エアー抜きを行う
■ オイル漏れ	● パッキンの不良	✓ シールキットを交換する

■エアー抜き

輸送後や修理後・作動油が不足した時はシリンダーにエアーが噛む事があります。
エアー噛みをすると動きが遅くなる、ジャッキが上昇しない・自然降下するなどの症状が出ます。
その場合は下記要領で「エアー抜き」を行ってください。(必ず無負荷状態で行ってください。)

1. リーズバルブを開放する(ハンドルを反時計回りに2~3回転し、緩める)
2. ハンドルを10回程ポンピングさせる
3. リーズバルブを締める(ハンドルを時計回りに回し、締める)

上記要領でも上手く作動しない場合は1~3を数回繰り返し行ってください。

■メンテナンス

- ジャッキは常に綺麗に清掃してください。
- 泥や埃・オイルなどが付着した場合は、必ず綺麗に拭き取って保管してください。
- ジャッキを雨の中で使用や、水をかけないでください。
- ジャッキは屋内で保管してください。野外や湿気・埃の多いところには置かないでください。
- ジャッキの可動部には定期的(月1回)オイルを給油し、作動確認を行ってください。
- 3ヶ月に一度はグリスニップルよりグリスを注入してください。
- パッキン交換時、作動油に水分が混入した時は必要に応じて作動油(ISO VG32)の交換をしてください。
- ジャッキを使用する前には下記の箇所を点検してください。
 - ✓ シリンダーやハウジングのひび割れ
 - ✓ ボルト・ネジの緩み
 - ✓ キャスターや可動部の給油
 - ✓ 作動油の漏れの有無
 - ✓ ボデーの曲がり・溶接個所の状況
 - ✓ ピストンロッドの錆や腐食

■保管方法

⚠重要

長期間ご使用予定がない場合は、下記の点に注意して保管をしてください。

次回ご使用の際にオイル漏れ等のトラブルが発生し、正常にご使用頂けない場合がございます。



- 受け台を必ず一番下まで下げる
- レリーズバルブを締める
- 水平な場所で保管する